

みんなの健康ラジオ

『突発性難聴について』

(2019年11月14日放送)

横浜市耳鼻咽喉科医会

国家公務員共済組合連合会

横浜南共済病院 耳鼻咽喉科

生駒 亮

突発性難聴とは

突然、左右どちらかの耳が難聴になってしまう病気である。

2012年の統計では、人口10万人当たり年間で60.9人が発症したとされ、50-70歳代に多いと報告されている¹⁾。

この頻度に当てはめると全国で年間7-8万人、横浜市の人口が375万人なので横浜市で年間2,300人程度発症する病気と言える。

治療開始までの時間が大切で、治療開始が早いほど成績が良いとされる。

1) 中島 務: 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 87, 558-563, 2015

定義・原因

定義：突発的に起きる原因不明の内耳性難聴。

内耳の血流障害やウィルス感染が原因であるとの説がある。

睡眠不足や心身のストレスに関連すると言われているが、明らかな原因は解明されていない。

症状

病気の名前の通り、左右どちらかの急な難聴が初発症状のことが多い。

めまいを伴う場合もある。

「耳がつまったような感じ」や「片方の耳がふさがった感じ」という症状の場合もしばしばある。

難聴の自覚がなく、耳鼻咽喉科の受診が遅れることがあるので注意が必要。

診断

耳鼻咽喉科を受診して、聴力検査や鼓膜の状態を確認することで診断に至る。

突発性難聴の場合、聴力の程度によって重症度を **grade 1-4** で分類する。

1日でも早く診断・治療を行った方がよい疾患だが、夜間・休日の救急病院の受診は不要である。直近の平日に受診で問題がない場合が多い。